



# 〈公開〉作品にみる生と死Ⅱ

死生学研究所

- |     |  |      |  |        |        |
|-----|--|------|--|--------|--------|
| □会場 | 東洋英和女学院大学大学院<br>(六本木) 201教室<br>東京都港区六本木5-14-40 | □最寄駅 | 六本木駅 (日比谷線徒歩10分)<br>麻布十番駅 (大江戸線徒歩5分)<br>(南北線 徒歩7分) | □参加費   | 各回500円 |
|     |  |      |  | □事前申込み | 不要     |
|     |  |      |  | □先着    | 100名様  |

## 第1回 研究会

6月12日 (土)  
14:40-16:10  
(受付14:10から)

### ■プロフィール

早稲田大学大学院文学研究科博士課程(心理学専攻)修了。文学博士(早稲田大学)。専門は、発達心理学。特に母子関係や愛着の問題を専門としている。昭和大学保健医療学部教授を経て、2004年より現職。

### ■主要業績

『アタッチメントの発達』川島書店、1995年。『早期関係性障害』(翻訳)岩崎学術出版、2003年。『共同注意の発達と臨床』川島書店、2004年。『アタッチメント—子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護をめぐって』(共編著)明石書店、2008年。

久保田まり

(くぼた まり)

本学人間科学部教授

## 愛着外傷の向こう側

—抱えつつ、越えていくこと—

内容紹介： 子ども時代の愛着に関する心の傷が、その後のその人の人生過程に負の影響を及ぼし続けることは、否定できないことではあります。しかし、心の傷を抱きつつも、その影響から独立し、過去の体験を超越して、新しい自己と新しい関係性を創造しながら、人生の地平を上げていくことは可能なことです。今回は、このような発達のresiliency(たち直る力)について考えてみたいと思います。

## 第3回 連続講座

6月12日 (土)  
16:20-17:50

### ■プロフィール

1964年生まれ。上智大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得満期退学。大正大学人間学部講師、准教授を経て、現在東洋英和女学院大学人間科学部教授。臨床心理士。専門は病院臨床心理学。

### ■主要業績

『心理・教育統計法特論』放送大学教育振興会、2009年(共編著)。『心の問題への治療的アプローチ』新曜社、2007年(共訳)。「統合失調症者への塗り絵を用いた心理療法」『箱庭療法学研究』Vol.22、No.1、p.3-17、2009年。

福田 周

(ふくだ あまね)

本学人間科学部教授

## 金子みすずの作品と生涯にみる生と死

—分析心理学の視点から—

内容紹介： 金子みすず(みすず)は、大正から昭和初期にかけて活躍した童謡詩人です。26歳という若さで亡くなり、その後半世紀の間忘れられていましたが、同じ童謡詩人の矢崎節夫氏によって再発見されました。みすずの独特な視点と無垢な子どもの言葉で語られる詩の世界は現代人の心をとらえ、世代を超えて我々に新鮮な驚きを与えて続けています。しかし、彼女の生涯は決して幸福なものではなく、女性、妻、そして母としてのあり方に苦悩していました。彼女は当時の家族観といったものに翻弄され、いわば時代の犠牲者として自死に至った人でもあります。本講座では彼女の生涯を追いながら、分析心理学的な視点から彼女の生にとっての創作の意義を振り返ろうと思います。

第2回 研究会 7月10日(土) 14:40-16:10 参加費500円  
谷川章雄 早稲田大学人間科学学術院教授  
墓からみた近世都市江戸の社会—身分・階層の表徴としての墓

第4回 連続講座 7月10日(土) 16:20-17:50 参加費500円  
細田あや子 新潟大学人文学部准教授  
「生命の木」のイメージの多様性



お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所  
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp  
03-3583-4035 (fax専用)